

ご挨拶

本日はお忙しい中「ピアノとパントマイム:ショパンの生涯」にお越しいただきありがとうございます。今回の公演はピアノの小林功がパントマイムの藤倉さんと一緒に舞台を作りたいと提案したことから始まりました。最初は奇想天外の発想と思われた小林功の提案は、すぐに演出の関根勝が面白いと言い出し、パントマイムの藤倉健雄に出演を打診して決まりました。ピアノの音楽にも、パントマイムにも人間の想像力を直接的に導く言葉がありません。ピアノの音とパントマイムの動きだけで表現をいたします。逆説的にはなりますが、限定された表現手段ゆえに観客の皆様の想像力に訴える必要が生じてきます。言葉を使わないということが、逆に表現を豊かにするというのもございます。本日の公演を通してショパンの生涯に思いをはせていただければ、幸いです。

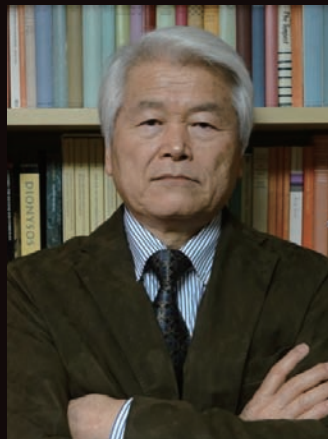
Project Si Producer 川橋範子

【演出】関根 勝

Theatre Project Si及びローマKyogen一座の作・演出家 観世流師範 早稲田大学名誉教授 国際アングロ・アイリッシュ文学協会日本支部設立者・元代表

著書にZe-Ami---His Theories of Noh DramaとYeats and Noh---A Comparative Study, 編著にIrish Writers Seriesがある。日本語の出版物には『狂言とコンメディア・デッラルテ——東西文化融合のダイナミズム』がある。

Theatre Project Si (2008年-2010年)ではシェイクスピアの主要6作品『ハムレット』、『リア王』、『オセロ』、『フォレスト』、『ロミオとジュリエット』と『マクベス』を翻案・演出、国立能楽堂を含め日本主要都市能楽堂で公演、2012年、新作品『骨の夢』作・演出、国立能楽堂で公演。2014年、音楽劇『Act of Betrayal』作・演出、国立能楽堂で上演



ひとこと

<ピアノとパントマイムによる「ショパンの生涯」>

ピアノの小林さんからパントマイムの藤倉さんとやってみたくて言われた時には、何とも奇想天外なことかなと思った。しかし、よく考えてみれば、非常に面白い企画だと思い始めた。二人の男によるきわめて簡素な舞台。イメージ的には白黒写真の舞台で、簡素であるが故に奥深い、感動を呼び起こせる、美しい舞台ができるのではないかと確信を持つにいった。私はセリフのない舞台を演出したことがないので、新たな挑戦としてこの舞台の制作に同意した。

そこで藤倉さんに連絡し、出演の依頼をした。「出来る事をしてもらえない。」というのは私の父・実相院のセリフですが、ピアノとパントマイムが生きるように演出をし、短命に終わったピアノの天才・ショパンの激しくも、悲しい生涯を美しく描き出したい。

ピアノとパントマイムによる ショパンの生涯

【今後のコンサートの予定】

2017年7月15日(土)

「ピアノと歌——小林 功と3Bシリーズ I: バッハ特集」

2018年6月2日(土)

「ピアノと歌——小林 功と3Bシリーズ II: ベートーヴェン特集」

2019年 未定

「ピアノと歌——小林 功と3Bシリーズ III: ブラームス特集」

2016年7月26日

@ Musicasa



主催 Theatre Project Si
&
カンジヤマ・マイム

ダンス指導・振付 持田耕史

照明 池田圭子

デザイン 石川麻理

撮影 吉越 研

ピアノ 小林 功
パントマイム 藤倉健雄
演出 関根 勝
主催 Theatre Project Si
&
カンジヤマ・マイム